

「有形の戦果と無形の損失」

一、能(ヨ)く教(オソ)うれば是(コレ)従(シタガ)う

十七条憲法(聖徳太子)に記載されている。

「人間は如何に生きるべきか」「如何に生活するべきか」

今日の幹部足るべき者の最も大事なことの一つは「説得力」である。

もし、一時間話をしようと思ったら、、、、

確かに、その十倍の勉強時間に加えて、少なくとも己れの考え方がまとまっていないと、

絶対出来るものではない。

自分の中で、考え方の概念整理が出来ていないとダメ。

管理者は、話が出来なくても率先垂範が出来れば良いか？それだけではダメ。

管理者の任務とは、一体何だったのか？

「己れに与えられた命令を、部下を通して遂行し、結果に対して責任を持つ」

上司「君に与えた任務はどうした？」

部下「確り自分の部下に伝えました、、、」

これでは「伝令」に過ぎない。伝えた結果がどうなったのか。

結果に対して責任を持たないと、管理者ではなく単なる伝令、子供の使いに過ぎない。

説得力やコントロールする能力がなければ、その任は務まらない。

説得し、納得させる。ここに、その任務と教育の主体があると思う。

新しく入社した者ほど遊んでいる企業。

つまり、古い社員ほど働き過ぎている会社ではダメ。

何としても、若い者を通して仕事をさせるという、管理者としての任務を果たしてもらわなければならない。

そうすると、古い社員が先ず着手すべきは、ムード・雰囲気作りである。

先輩が後輩に対して苦勞を苦勞と感じさせない雰囲気を作れるか、どうかである。

これが会社の繁榮の分かれ道となる。しかし、ここに留意すべき点がある。

それは、古い社員が守れない規定は、新しい社員に守れる筈はない！ということ。

社内に於ける作業標準の決定を、新しい社員だけが守れば良い。

という態度を執れば、逆に後輩は誰も守らなくなる。

人のよく犯す失敗(やってはならない事)

形ある戦果に酔うて、目に見えない損失を被る。逆に言うと、目に見える好業績の所為で、却って従業員が勤勞意欲を失くしてみたり、何かマンネリ化や、無気力な雰囲気を社内に蔓延させるような結果を招いてしまう。

人間は一度受けた精神的汚名つまり、精神的衝撃は、その後の長い人生に大きな影響

を与えるもの。殊に人は、本当に困っている時に、親切にされた。ということは、

よく覚えているもの。しかし同時に、不親切にされたことは、余計覚えているもの。

こういことが、上司に対する大きな評価を与える結果となる。

信頼は、どうやって得られるのか。

口数の多寡や、ジェスチュアの上手下手によって得られるものではない。

ちょっとした人間の心理作用に、真の温かさと誠意があるか、どうか。ということが、

その人が終生を懸けた忠実な部下になるか、どうか等の分かれ目になるもの。

忠臣蔵・討ち入り血判した者は150名居た。赤穂浪士350名中150名である。

結果、討ち入りに参加した人は47名。いわゆる四十七士である。下級武士達であった。

大石良雄は、去って行った者を一切追わなかった。生活を取るか武士の意地を取るか。

人生の意義目的

多くの人が、よく言う「生活が懸かっているので、、、」

例:「夫婦の為の生活なのか?生活の為の夫婦なのか?」ということである。

夫婦の為の生活なら、夫婦が目的であり、生活は手段となる。

生活の為の夫婦なら、生活が目的になり、夫婦は手段となる。

本当の意味での夫婦は、前者でないと成し得ない。

これを「生命体系」と言う。後者を「生活体系」と言う。

お互いは夫婦となるべき意義目的が明確でないといけない。

人生は「生活の為」だけが全てなのか?これでは、犬や猫と変わらない。

人間は不思議なもので、食えない間は食えることを要求する。

しかし、食えるようになると、生き甲斐のある食べ方、人間らしい食べ方つまり、人として

の生きる意義目的を要求することになる。企業も同じ。生命体系の会社でないと、躍動し

ないのである。会社の存在理由は、何処にあるのか?生活体系にあるのなら、労働力と

給料の交換所に過ぎない。生命体系にあるなら、社業を通して己れの社会的任務を果

たすことになる。会社には、果たして行かなければならない会社の使命がある。

会社の問題があるとすれば、この意識の欠如である。

勿論、会社は営利事業であるから、利益を無視しては成り立たない。

経済の為の人は、お金が意義目的となる。人の為の経済は、お金は手段。

成さねばならない仕事の為に、世の中は、楽が出来ることだけが、幸福なのか？ということである。

## 二、科学的作戦と芸術的作戦

科学的とは、論理的、合理的、組織的ということ。ドイツ型と言われている。

長所は、勢いに乗じ、非常な力を持つ。

短所は、一片の破れが全体を狂わす。緒戦の勝利、最終的敗北。

芸術的とは、融通的、ゆとり。フランス型と言われている。

長所は、一片の破れによって、全体が狂うことはない。緒戦の敗北、最終的勝利。

短所は、エンジンが掛かり難い。

「論理的・合理的・組織的」というのは、「計画的」ということ。

一つの部品が欠けても、完成品は出来ない。逆に「融通的」と言うのは、物事を理詰めに考えない。むしろ、ゆとりを持った行動を執ろうとする。

中小企業は、科学的作戦を執るべき。

理由は、人材が整い難い。技術、組織も大企業に比べて、整えるのが困難。

だから、経営者自らが、あらゆる角度から論理的、合理的、組織的に考え尽くして、行動に移すより仕方ない。

但し、一片の破れで全体が狂うように合理的に理屈で追い詰めると、物事に摩擦を生じやすくなるので、幹部の人柄によって、部下に心のゆとりを与えてやってほしい。

### 三、名人芸とは

車の運転が上手い。とは？

早く目的地に着くと共に、搭乗者が安心して乗っていただけること。

つまり、変化を感じさせない。ということ。

「安心して」というのは「いつの間にか」ということ。

話し上手な人の話は、いつの間にか、ついついと話に引き込まれて、時間の経つのを忘れるもの。

得意先の交渉も、

1:いつの間にか、相手が乗せられている場合と、

2:いつの間にか、こちらが乗せられている場合がある。

セールスマンとしての交渉技術の如何ということ。

社内のムードの確立や、体制の立て直しに於いても、これは同じこと。

理想を言うと、いつの間にか、社内の体制が変わっている。ということ。

大した不協和音を出さずに、苦勞を感じさせず、ルールに乗って行く。

というのが本来の経営。

人間は、良い事とは分かっているが、大きな変化を好まないもの。これが人の本質。

人間は大なり小なり保守性を持つ。誰しも、良くなりたいたとは思っているが、そこに危険性が伴うとなれば「良くなりたいた」と思う前に「これ以上、悪くなりたくない」と思う訳である。

この後者の気持ちが先行する。

これは結局「現状を維持したい」という気持ちが強いから「変化を好まない」ということである。